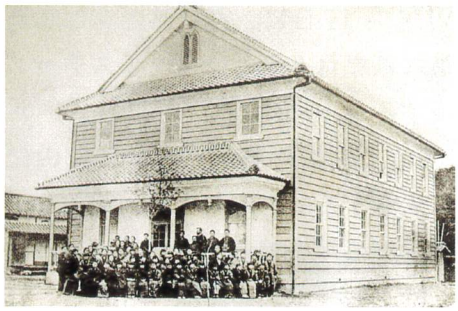
山陽学園



最初の校舎 1888(明治21)年



上代　淑



旭東日曜学校

来岡の宣教師や、その初期の信者がまいたキリスト教精神は、教育界にも人材を送り込んだ。活発なキリスト教運動によって、本教会の熱心な信徒たちは、一般教育活動を展開するようになった。1881年（明治14）～1882年（明治15）頃から7、8年間が、キリスト主義学校が設立される時期でもあった。本教会が設立された後、入信者が相次ぎ、士族や地主とその子女たちが岡山の地に女学校を設立したいと願い、宣教師オーチス・ケリー、の賛同を求め1886年（明治19）7月17日夜、小野田伊之吉（岡山県尋常師範学校付属教師）、石黒涵一郎（弁護士、山陽自由党創始者）、小原俊治（岡山電信分局長）、本教会元老丸毛真応（旭東講義所創設者）ら十数名の信徒、他に西山小寿（のち金森通倫の妻）が集い討議が行われたが、時期尚早とのことで議決には至らなかった。当時はまだ、特に地方においては、旧来の社会的慣習や家族道徳観のために、女子教育不要論が支配的であった。

しかし、小野田は、石黒、小倉と女学校設立のために、宣教師ケリーと共に、先行の神戸英和女学校（神戸女学院の前身）、梅花女学校、同志社女学校などのミッションスクールを調査、研究し、女学校の開設の準備を行っていた。その後、同年10月18日、設置者石黒涵一郎、主任教師西山小寿、庶務会計小野田伊之吉とし、本教会牧師金森通倫、また教会員の情熱と献身とによって、「山陽英和女学校」（現山陽学園）が設立された。

現代の山陽学園となるまでの功労者に、本教会員の上代淑がいる。彼女は本教会の長老、婦人会会長、また旭東日曜学校校長として長く奉仕した。上代淑は、上代知新牧師（日本基督組合教会牧師・高梁教会初代牧師）の長女として1871年（明治4）6月松山市に生まれ、1882年（明治15）、大阪教会宮川経輝牧師より受洗、1889年（明治22）大阪梅花女学校を卒業し、宣教師ホワイト、宣教師ローランドのすすめで、1989年（明治22年）に山陽英和女学校の教師として赴任、1908年（明治41年）同校校長に就任以来88歳で現職校長のまま、天に召される（1959年・昭和34年）まで山陽学園の長い歴史を背負って教育活動にたずさわった。